

2014年5月7日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役社長 重田 衛
(コード番号 5103 東証第二部)
問合せ先 執行役財務総務担当 庄司 友彦
(TEL. 04-7131-0181)

ゴム報知新聞記事－昭和ゴム株式会社 渡邊社長インタビュー

当社のゴム事業子会社であります、昭和ゴム株式会社の代表取締役社長・渡邊正氏のインタビュー記事が、平成26年4月21日付のゴム報知新聞および、ゴム報知ウェブサイト上に掲載されました。

【ゴム報知新聞ウェブサイト URL】

<http://www.posty.co.jp/np/atcl/?id=1398140449-637218>

昨年12月から始まった同社代理店である常盤ゴムとの業務提携の内容にあわせ、中期事業行動計画「ゴム事業アクセルプラン2012」の進捗状況と展望についても触れております。

この業務提携により、販売・調達網が確実に強化されております。国内市場における事業発展のみならず、「アセアンにおける新市場開拓」、「ゴムライニング アジア No.1」の実現に大きく寄与するものと期待しております。

本日同日に発表いたしました、「マレーシア子会社におけるマレーシア人社長の就任」と合わせまして、当グループのアジア全域における GLOCAL 展開の強い意志を示すものです。

以下、記事の抜粋となります。

昭和ホールディングス傘下の昭和ゴム（本社・千葉県柏市十余二）は昨年12月、工業用ゴム製品の代理店である常盤ゴム（本社・東京都葛飾区）と業務提携を行い、両社が協力してゴム事業の再生を目指すと発表した。業務提携の狙いや、今後のゴム事業の見通しについて、昭和ゴムの渡邊正社長に聞いた。

■業務提携の目的は。

「常盤ゴムの創業者が昭和ゴムを経て独立をしたという経緯もあって、常盤ゴムとは50年以上の長きにわたる取引関係にあります。特に当社の代理店として活動する協力体制にありましたが、当社が1997年に医療用ゴム栓から、2003年にゴムロールからそれぞれ撤退

するなど、ゴム事業を縮小したことを受け、15年ほど前から常盤ゴムとの取引額が減少しました。しかし、当社グループが09年に新しい経営体制に移行してから、再び常盤ゴムと信頼関係が積み上げられ、今後はともに協力して両社のゴム事業を発展させようという考えで一致しました。また、常盤ゴムが08年のリーマン・ショック以降、売上げが低迷し、現社長の西田一朗氏が高齢（73歳）であり、後継者がいないという事情も背景にはありました」

■業務提携の内容は。

「主な内容としては、①原材料資材製品の共同購買等を通じたコストダウンの検討、②販売先の相互乗り入れによる売上拡大の検討、③海外市場、海外仕入先の共同開拓、④新規商品の共同開発、⑤当社等からの常盤ゴムに必要な人材の派遣、⑥常盤ゴムの財務安定への協力の6項目です。業務提携は昨年12月中旬からスタートしましたが、6項目のうち②③⑤の3項目はすでに動いています。具体的には、常盤ゴムに対して客先への技術的サービス、引き合い案件への協力、支援などを行っており、海外市場では常盤ゴムも中国に協力工場がありますが、今後は昭和ホールディングスグループの中国・青島事務所を活用します。人材派遣では、当社の山口取締役が常盤ゴム取締役として着任しています」

■提携の今後の見通しは。

「当社としては、業務提携を着実に実行することで黒字化を達成し、さらに両社の事業を拡張・発展させていく計画です。将来はもっと踏み込んだ関係になることも十分考えられると思います」

■昭和ゴムは現在、中期事業行動計画「ゴム事業アクセラプラン2012」を推進していますが、その中身は。

「ゴム事業アクセラプラン2012は、12-14年度の3カ年計画で、14年度が最終年度となります。3カ年の集中項目として、①成長が期待されるアセアンを中心に、インフラ市場と医療市場の開拓に挑戦、②ライニング事業はマレーシアにある兄弟会社、ショーワ・ラバー・マレーシア（SRM）と連携し、『ゴムライニング アジア No.1』を目指す、③全社技術者集団化の一環として、加工技術者および開発技術者の育成を行うの3つをゴム事業の柱にして取り組んでいます」

■最終年度を迎え、その進捗状況は。

「当社の親会社である昭和ホールディングスが12年2月、旧ニューズポリマーの生産設備、知的財産等を取得し、当社の常陸大宮工場としました。そこで鉄道、橋梁等のインフラ市場開拓は旧ニューズポリマーのリソースを活用して進めます。また中核事業のライニングについては、アセアン、インド、中東の市場を狙うのが基本方針であり、中でもインドネシアとベトナムに重きを置いて市場開拓を進め、良い手応えを感じています。3年後の16年度には、“ゴムライニング アジア No.1”を達成したいと考えています」

以上